

国際ロータリー第 2750 地区 地区大会
奨学生代表スピーチ

2015 年 2 月 25 日
林徳仁

2012 年から 3 年間、米山奨学生として目黒ロータリークラブにお世話になっております。韓国の釜山から参りました林徳仁と申します。今日、このような場で、お話をする機会を与えていただき、とても光栄に思います。どうぞ、宜しくお願い致します。

留学のために来日してから 10 年の時が経ち、現在、私は、東京大学総合文化研究科博士後期課程に在籍しております。次に、大学の研究について紹介させていただきたいと思います。博士論文の研究では、外国人女性の実態を対象にしています。特に、結婚・労働・子育て・地域社会への参加の観点に着目しています。近い将来には、外国人の日本社会への受け入れや女性の社会進出といった日本社会における重要な課題に対する学術的・社会的な理解を深めることに貢献したいと希望しています。

では次に、ロータリーとの出会いと、そこで得た経験についてお話しさせていただきます。ロータリー米山記念奨学生になって、素晴らしい・貴重な経験はたくさんあります。

例会では、学業や日本の生活に関する不安について、ロータリアンの方々が相談にのってくださり、「日本の親」のような心強いサポーター役をしてくださいました。心より感謝申し上げます。また、卓話では、経営者や芸術家など日本の様々な分野の第一線で活躍する方々から貴重な話を伺え、人生に対する考え方がとても豊かになったと実感しています。

また、「家族集会」「クリスマスパーティー」「お花見」などの交流会も開かれました。これらの機会には積極的に参加するように心がけました。大学と異なる社会空間で、人生の先輩との交流を深め、日本人のやさしさを感じました。

地域の奉仕活動に参加したことも良い思い出です。目黒ロータリークラブの皆様と地域のゴミ拾いの奉仕活動を行いました。私の担当は、ゴミ拾いのお手伝いと地域の皆様へのお弁当を配ることでした（笑）。

米山奨学生としての活動では、広島で行われた「世界平和フォーラム」へ参加しました。「奉仕を通じて平和へ」というテーマが掲げられ、ロータリーが世界各地で実

施している奉仕の精神とその活動について学びました。第 2750 地区のみなさま以外にも世界各国のロータリアンに出会う事で、よりいっそうロータリーの奉仕の楽しさについて感じる事が出来ました。2 日にわたり行われた大規模の「地区大会」では、目黒ロータリークラブのアシスタントとして、道案内役をしました。

これらの経験や交流から学んだ事があります。

それは、交流の楽しさと大切さです。この、ロータリークラブでもよく実践されている積極的な交流の大切さを学び、交流は、人々の交流、文化の交流、国家と国家との交流、など様々な場面で使われ、それらのすべての交流は、相互理解のもとに成り立っているのだと強く感じました。交流と信頼という言葉を実践する場所であったと認識しています。

ここから、私が日本に関心を持つようになったきっかけについてお話しさせていただきたいと思います。

私の祖父は、韓国に対する愛国心がとっても強い人でした。国際化という言葉にもあまり興味がなく、韓国の伝統文化を重要視しており、留学など必要ない、就職や結婚は韓国でしないと意味がない、と、いつも繰り返し強調してきた方でした。特に、日本に対する反感は、お正月に私が訪ねるたびにみせました。面白いことにその祖父のもとで成長した私の父は、日本文学を専門とし、現在、韓国の大学で日本語や日本文学を教えながら日韓交流にも活発に関わっています。「お父さんは、おじいちゃんに反抗して日本語を勉強したの？」と、幼い時に私が尋ねたとき、父は、「お父さんのおばあちゃんに教えられたことがあったからだよ」と、答えてくれました。

私の曾祖母は、戦争が終わった後も、村にはたくさんの若い日本の兵士たちが苦しい生活を送っていることを目の前にしたようです。村の人々は兵士たちをとっても恐れていて、誰一人として近寄らなかつたようです。ですが、私の曾祖母は、自分が貧しい生活を送っていたにもかかわらず、日本の兵士たちにサツマイモやじゃがいもを定期的に配りに出かけ、病気の時には家まで連れてきたようです。その話を、孫である私の父に話しながら、「日本人であろうが韓国人であろうが、人はみんな愛される存在であり、知らない人に対し、見た目や国籍や言語で判断してはいけない」と、教えたそうです。日本という国に反感ではなく、興味を持ち始めた父は、日本研究者への道を選択しました。

そんな父と一緒に、私は子供の時からたくさんの日本の方々に出会いました。しか

し、学校で教えられる「暗い」日本のイメージと、実際に会う「明るい」日本の方たち、「楽しい」日本文化とのギャップを感じるがよくありました。子どもながらに、不思議に思っていたところ、父が日本に直接行き、自分の目で日本の姿を見ることを提案してくれました。それが私の日本に来る、一番の動機となりました。

ロータリー米山記念奨学金は、私にとって、世界観を広げ、ネットワークを強くし、奉仕と平和への責任感を持たせてくれた、大事な存在です。これから、わたしは永遠なるロータリー米山奨学生として、人と人をつなげる、そして交流の場を設けられる人間になるため、頑張っていきたいと思います。

また、今後は、今までの感謝の気持ちを表す恩返しとして、奉仕活動にも積極的に参加し、自らの体験を発信していくように頑張ります。そして一期一会の言葉通りに、皆様との出会いを大切にしていきたいです。最後になりますが、近い将来、自分の夢でもある国際社会で求められる人材となり、東京米山友愛ロータリークラブに入会したいと思います！どうかこれからもよろしく願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。